

Just Now

I はじめに

子どもたちは、中学校1年生で英語と出会う。入学当初にはとても楽しそうに学んでいるが、覚える単語の数が増えたり教科書の文が長くなったりしてくると、苦手意識を持つ生徒がでてくる。そのことは、私自身の数年来の悩みであった。英語は、スポーツや音楽を習得すると同様に、繰り返し使いながらじっくりと身につけていくことが望ましいと考え、現在の中学校の学習内容の配列は生徒たちにとって急な勾配になっていると思われる。

南足柄市では、2007年度から3年間、「幼小中の一貫教育」で文部科学省の研究開発学校の指定を受けた。英語教育の充実も取り組みの中に位置づけられ、2008年度からは、小学校全学年で英語活動を行っている。中学校1年生の4月に行っている楽しい活動を小学校の6年間かけてゆっくりと行っていく、小学校と中学校の英語指導をなめらかに接続することができれば、子どもたちの英語に対する抵抗や負担を少なからず軽減させることができるのではないかと大きな期待を持っている。

II 2007年度の南足柄市での実践

(1) 英語科推進部会について

昨年度、南足柄市英語科推進部会が設置された。構成員の中心は、小中学校教諭各2名である。議論を重ねながら小中一貫カリキュラムを作成し、小学校英語活動が次のように実施されることになった。

[1・2年生] ビデオとチャンツを中心とした活動。
週1回15分程度のモジュール(年間11時間相当分)は学級担任が行い、その他年間4時間は、学級担任とJTEとのTTで行う。

小中一貫教育をめざした 英語教育の取り組み

関口 清 Sekiguchi Kiyoshi
(神奈川県南足柄市立南足柄中学校)

[3・4年生] 週1回15分程度のモジュールは担任が行い、その他年間9時間は学級担任とALTまたはJTEとのTTで行う。

[5・6年生] 年間35時間。学級担任とALTまたは小中兼務教諭(次項で説明)によるTTで行う。

なお、中学では、コミュニケーション主体の活動を意識して行うこととした。

(2) 小中兼務教諭について

2007年度に南足柄中学校の私と、隣接する南足柄小学校の教諭が小中兼務教諭として辞令を受けた。小学校の小中兼務教諭は、マレーシア日本人学校での勤務経験もあり、英語教育に強い関心を持っていたのですぐに意見や考えが合った。私たちは、それぞれ週2日、5・6年生の英語活動を学級担任と行い、さらに週1日、私とともに中学校1年生3クラスの英語の授業を行った。

《設置のねらい》

- ① 中学校の英語の内容を意識しながら小学校5・6年生での英語活動の充実を図る。
- ② 「中1ギャップ」と言われる小学校と中学校の段差を軽減することにつなげる。
- ③ 小学校と中学校の教員が交流することにより、互いの教育活動への理解を深める。

また、学級担任が自信を持って英語活動の授業が行えるためのスキルアップの場とも考えた。

《小学校5・6年生での実践》

以下の点に留意して授業を行いながらカリキュラムの見直しや教材を開発、さらに1時間ごとの活動案も作成した。

- ① 5・6年生の知的好奇心を刺激し、興味関心を高めるような内容とする。
- ② 「英語は聞けばわかるんだ」と児童が思えるように、英語を聞く活動を中心に据え、そのための場面設定を工夫する。

- ③ 学級担任がすぐに授業で使えるように、詳しい授業展開と簡単な英語を使った活動案を作る。
- ④ 表現活動や対話練習は全員が言うことのできる簡単な内容とする。

5・6年生の活動案の紹介(一部)

ABC コールⅡ・ひもで形を作ろう!

- 1 The ABC song (3分)
学級担任: Let's sing "The ABC song."
ALT: That's a good idea. Look at this chart. This is a new one.
 - ① "The ABC Song"を歌う。(「小文字のマス目の表」で文字を確認してから歌う。)
- 2 似ている字をさがせ[小文字] (7分)
学級担任: Let's compare small letters.
ALT: That's a good idea.
 - ① 「小文字のマス目の表」を使い、学級担任は形が似ている文字を見つけさせ発表させる。
- 3 ABC コールⅡ [大文字と小文字] (10分)
学級担任: Next, let's see capital letters and small letters. I will give you a worksheet.
ALT: OK! That's good.
 - ① 「大文字・小文字シート」「ABC コールシート」を両面印刷したシートを配る。
 - ② ALTは capital letters と small letters を説明し、発音したアルファベットに○をつける練習をさせる。(6～10回程度)
「大文字・小文字の表」を黒板に貼る。
 - ③ ABC コールの要領で大文字と小文字を結びつけるアクティビティをする。

【年度当初】学級担任に授業を見てもらい、小中兼務教諭どうしてTTを行った。

【7月以降】学級担任と一緒に授業を行うようにした。はじめのうちは、後ろの方にいた学級担任も次第に前に出て積極的に授業をするようになっていった。工夫を加えながら指導する姿を見て、それぞれの持ち味をできるだけ発揮していただけるようなサポートを心がけた。

【10月頃から】学級担任にメインティーチャーとして授業を行ってもらうようにした。

《英語活動出前授業》

2008年度から実施される市内全小学校(6校)での英語活動に向け、小中兼務教諭2人で各小学校

に出前授業に伺い、小学校英語活動のモデル授業を公開した。授業の後の研究会等では活発な討議がなされた。まずは、英語活動の楽しさやおもしろさを見て感じていただき、先生方の不安の解消とモチベーションの向上を図るように心がけた。

《成果と課題》

互いに小中学校の児童・生徒の様子、職員室の雰囲気、指導法の違いなどを肌で感じることができた。また、2人が気軽に小中学校の職員室を歩き来し、他の職員ともふれあうことで小中学校の垣根を低くすることに貢献できたのではないかなとも思う。

特に私は、小学校現場の多忙さも目の当たりにし、その中で英語活動をスムーズに導入していくためには、先生方の負担をできるだけ軽くすることが重要だと感じた。また、小学校の小中兼務教諭も、中学校での英語学習の急勾配な学習内容を実感し、小学校で英語を聞くことに十分に慣れさせることや、文字にふれる活動の必要性を強く感じた。

Ⅲ 2008年度の取り組み

2008年4月から市内6小学校すべての学年で英語活動がスタートした。5・6年生については、ALTと私たちが分担して全ての授業を学級担任とTTで行っている。各小学校との連携を密にとり、活動案やシステムの改良を行いながら、現在のところスムーズな活動ができていていると思う。

一方、小学校の学級担任が主導で授業を行っていくために今後どのようなサポートをしていくかは課題である。さらに、小学校英語活動を中学でどのように活かしていくかも検討中である。小学校英語活動の授業を参観した中学校の教諭は、その内容の充実を感じている。それを受けて、4中学校で連携をとりながら、コミュニケーション主体の活動の推進に力を入れているところである。

今回の取り組みを通して最も強く感じたことは、大切なのは「人」だということである。校種間の垣根を取り払い、人と人がつながるのが南足柄市の教育の主眼である。教師も子どもたちも「共に楽しむ」ことをコミュニケーションの第一歩として、今後も連携を深めながら「南足柄の英語」をよりよいものへと高めていきたい。